

～地域密着型の市場(シジャン)で、韓国の息吹を感じる～

下関市総合政策部国際課  
(釜山広域市派遣職員)

大江 敏彦

旅行の楽しみの一つに、ショッピングがありますね。ツアーの合間の自由時間に、西面や南浦洞などの繁華街に繰り出して、韓国コスメ(化粧品)を買ったり、「マート」と呼ばれる大規模なスーパーマーケットで、お菓子や海苔などを買ったりする方も多いのではないのでしょうか。釜山においても、食料品など生活用品の買い物といえば、週末に自家用車でマートに行き、家族連れでカートを押しながら食料品や日用品をまとめ買いする風景が一般的となっているようです。

その一方で「在来市場」や「伝統市場」と呼ばれる、日本でいえば「駅前商店街」のような雰囲気地域密着型の市場や、小回りの利く近所の小さなスーパーの良さも、最近は見直されているようです。そのような在来市場は、2014年現在、全国に約1500ヶ所あるといわれ、釜山市内には約160ヶ所が商人連合会に加盟しています。チェーン店や大型マートの大量仕入れ大量販売の画一化された品揃えやサービスではなく、互いの顔が見える商店で、新鮮で上質なものを少しずつ、または割安な価格で購入できる点が強みではないのでしょうか。例えば、個人経営のベーカリーなど、チェーン店にはない高い技術力を持った個性的で多様性のある商品へのニーズも高まって来ていると感じます。韓国の高度成長を支えた世代を描いた映画「国際市場」の大ヒットも、映画そのものの素晴らしさもさることながら、かつての右肩上がりの経済成長一辺倒から、今までの生活を一旦立ち止まって見直す方々が増え始めている最近の世相を反映し、人々のノスタルジーを誘っているからかもしれません。

併せて、アーケード屋根の整備、通路の舗装、駐車場の確保などの周辺環境整備への行政側の投資もこれを後押ししています。また「伝統市場商品券」と呼ばれる地域限定商品券への財政的な補助や、商品が無秩序に並べずに買物客の通路を確保するといった基本的なルールの徹底などにも力を入れています。

釜山観光の際に立ち寄りやすい在来市場といえば、南浦洞エリアならば、一昨年の冬から夜市が始められた、国際市場の隣にある「富平(プピョン)カントン市場」が挙げられます。また、西面の近くでは、釜山最大の在来市場である釜田(プジョン)市場が、そして地下鉄1号線、凡一(ボミル)駅の徒歩圏内には、靴や衣料品中心の平和(ピョンファ)市場、貴金属に特化したゴールドテーマ通り、繊維製品に特化した釜山鎮(プサンジン)市場が集まっています。海雲台海水浴場の近くにも海雲台市場という飲食店も多い市場など、挙げればきりがありませんが、本当にたくさんの市場が点在しています。皆さんも地域密着型の在来市場で、韓国の日常生活の息吹を感じてみませんか。



△釜山最大の在来市場 釜田市場



△舗道が整備されているゴールドテーマ通り